

小児科研修カリキュラム

研修目標

I. 一般目標 (General instructional Objectives)

- A 小児科および小児科医の役割を理解し、小児医療におけるプライマリ・ケアを適切に行うために必要な基礎知識・技能・態度を習得する。
- B 成長と発達、親子関係の心理的影響などの小児の特性を理解する。
- C 成人疾患と異なる小児期の疾患の特性を理解する。
- D 小児診察における重要なポイントを理解し、小児の特性を踏まえた初期治療計画を立案し、これを行う。
- E 小児救急患者の重症度を正しく評価し、初期救急を適切に行い、高次医療機関への紹介を適切に実施する。
- F 重症心身障害児・者に対する理解を深めるため、医療・療育の現状を知り、問題点を指摘できる。

II. 行動目標 (SB0: Specific Behavior Objectives)

A 良好な患児・家族—医師関係を構築する

正しくインフォームドコンセントがとれるよう様々な場面の医療面接を経験する。

B 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的な小児科的問診のとり方

- ・ 子どもや養育者との信頼関係に基づいて情報収集ができる。
- ・ 子どもに不安を与えないように接することができる。
- ・ 診断に必要な情報を的確に情報収集できる。
- ・ 子どもの発育歴・既往歴・予防接種歴などを聴取できる。
- ・ 身体疾患だけでなく心理的問題の把握ができる。

(2) 診察法

- ・ 子どもの年齢に応じた系統的診察ができる。
- ・ 顔貌，栄養状態，発疹，呼吸状態，チアノーゼ，脱水について視診により全身状態を包括的に観察し，重症度を推測できる。
- ・ 正確な身体計測とバイタルサイン測定ができる。
- ・ 身体発育，性的発育，神経学的発達，生活状況の概略を評価できる。
- ・ 診察中，子どもや家族への声かけと配慮ができる。

(3) 検査方法

- ・ 尿検査（沈渣，尿細菌培養を含む）
- ・ 便検査（性状，潜血，便培養を含む）
- ・ 血液検査（血算，白血球分画，血液像，生化学検査，免疫学的検査）
- ・ 細菌学的検査（迅速診断キット，培養，PCR，感受性試験）
- ・ 髄液検査
- ・ X線検査（単純，造影）
- ・ 心電図
- ・ 超音波検査（心臓，腹部）
- ・ CT（頭部，腹部）

- ・ MRI (頭部 , 腹部)

(4) 経験すべき一般的治療

- ・ 性・年齢・重症度に応じた治療計画を立案できる .
- ・ 薬剤の投与量と投与方法を決定できる .
- ・ 服薬・食事指導 , 精神的サポートの基本を説明できる .

C 経験すべき症状・疾患

< 症状 >

- ・ 体重増加不良 , 哺乳力低下
- ・ 発達の遅れ (運動 , 精神 , 言語)
- ・ 発熱
- ・ 脱水 , 浮腫
- ・ 発疹 , 湿疹
- ・ 黄疸
- ・ 心雑音 , チアノーゼ
- ・ 貧血
- ・ 紫斑 , 出血傾向
- ・ けいれん , 意識障害
- ・ 頭痛
- ・ 咳 , 喘鳴 , 呼吸困難
- ・ 頸部腫瘍 , リンパ節腫脹
- ・ 便秘
- ・ 下痢 , 血便
- ・ 嘔吐 , 腹痛
- ・ 夜尿 , 頻尿
- ・ 肥満 , やせ

< 疾患 >

a. 経験すべき疾患

- ・ 生後4ヶ月未満の発熱
- ・ 乳児疾患 (おむつかぶれ , 乳児湿疹、乳児下痢症)
- ・ 感染症 (水痘、突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ、インフルエンザ)
- ・ 感染性胃腸炎
- ・ 急性扁桃炎 , クループ症候群、気管支炎 , 細気管支炎 , 肺炎
- ・ アレルギー疾患 (気管支喘息、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アナフィラキシー)
- ・ 神経疾患 (てんかん、熱性けいれん)
- ・ 腎疾患 (尿路感染症)
- ・ 川崎病
- ・ 血液疾患 (貧血)
- ・ 内分泌・代謝疾患 (低身長、肥満)
- ・ 救急疾患対応
 - 脱水症の重症度と応急処置、代謝性アシドーシスの評価
 - 気管支喘息の重症度と応急処置
 - けいれんの応急処置

-酸素療法

-救命処置 (BLS)

-虐待の早期発見と初期対応、児童相談所と養育の問題の連携

b.経験することが望ましい疾患

- ・感染症 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎)
- ・染色体異常症 (Down 症など)
- ・伝染性膿痂疹 (とびひ)
- ・アレルギー疾患 (食物アレルギー)
- ・神経疾患 (髄膜炎、脳炎・脳症)
- ・腎疾患 (ネフローゼ症候群、急性腎炎、慢性腎炎)
- ・心疾患 (先天性心疾患、心不全)
- ・リウマチ性疾患 (若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス)
- ・血液・悪性腫瘍 (小児がん、白血病血小板減少症、紫斑病)
- ・内分泌・代謝疾患 (糖尿病、甲状腺機能低下症)
- ・発達障害・心身医学 (精神運動発達遅滞、言葉の遅れ、学習障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害)
- ・救急疾患

腸重積の診断と対応

虫垂炎の診断と外科コンサルテーション

その他の救急疾患を経験する：心不全，アナフィラキシーショック，急性腎不全，異物誤飲・誤嚥，事故（溺水，転落，中毒，熱傷など），来院時心肺停止症例，乳児突然死症候群

D 重症心身障害児者病棟における療育活動に参加する

研修方略

III. 研修スケジュール

1: 全体のスケジュール

第 1 週 オリエンテーション (医長)

初回面談 (医長) (マイゴールの設定、アクションプランの設定)

実地診療の説明 (指導医)

第 2 週 診療に従事、当直に参加

第 3 週 診療に従事、当直に参加

第 2 回目面談、中間評価 (医長)

第 4 週 診療に従事、当直に参加

第 5 週 診療に従事、当直に参加、午後は重症心身障害児者病棟における療育活動に参加

第 3 回面談、中間評価 (医長)

第 6 週 診療に従事、当直に参加、午後は重症心身障害児者病棟における療育活動に参加

第 4 回面談 (最終面談)、まとめと最終評価・ (医長)

面談日は適宜医長と相談し、その都度決定する。

第 3 週以降は、医長と相談し、目標達成のためのスケジュールを作る。

2: 週間スケジュール

第 1 週、2 週は見学と病棟の処置を中心とする。可能な限り指導医と一諸に行う。小児一般外来が中心となるが、処置があれば重心病棟でも処置を行う。

午前中

月曜日 小児科カンファレンス・外来・病棟
火曜日 小児科カンファレンス・外来・病棟
水曜日 小児科カンファレンス・外来・病棟
木曜日 小児科カンファレンス・外来・病棟
金曜日 小児科カンファレンス・外来・病棟

午後

慢性外来
慢性外来・二次救急当直、医局会（第2火曜）
慢性外来・小児科多職種カンファレンス
慢性外来・二次救急当直
予防接種外来、二次救急当直

各種研究会、学会などに参加し、研鑄に努める。

主に小児一般を担当し、主治医として外来・入院での診療を担当する。不明な点については積極的に指導医の指示を仰ぐ。

<1 一般外来および二次救急>

指導医とともに問診・診察を行う。入院決定の場合、必要事項について理解する。また、指導医とともに担当医となる。

二次救急日（火、木、金曜日）に当直医とともに診療に当たる

疾患に対する保護者の不安に配慮できる

保護者の話を傾聴できる

感染性疾患の所見、鑑別診断

脱水症の所見、鑑別診断

乳幼児の正常発達について適切に判断できる

予防接種に対する基本的ことがらをのべられる

<2 一般病棟>

1) 急性期入院

指導医とともに主治医として診療に当たる。

扁桃炎、喉頭炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎の治療

胃腸炎、脱水症の治療

熱性けいれんの治療

髄膜炎の治療

一般的な小児の処置

採血、輸液路確保、腰椎穿刺

2) 慢性入院

指導医とともに診療に当たる。

保護者の話が傾聴できる

子どもの性格特徴を適切に把握できる

学校との連携がとれ、子どもの生活に配慮ができる

それぞれの疾患における生活指導を行える

<3 重症病棟>

誕生日会等行事への参加

重症病棟のあらましを理解する（法律的知識）

重症児とのコミュニケーション

重症児の生活（食事介助、入浴介助、排泄介助）

重症児の処置（カニューレ交換、経鼻胃管交換、経鼻十二指腸チューブ交換、胃瘻ボタン交換）

重症児の栄養について

在宅の重症児について、現状を把握できる（短期入所、通所事業）

＜4 各種学会、会合＞

1) 院内

医局会 （毎月第 2 火曜日）

症例検討会（毎月第 3 水曜日）

信州児童思春期懇話会（毎月第 4 木曜日）、発達障がい外来カンファレンス（毎週月曜）

2) 院外

日本小児科学会甲信地方会

小児神経懇話会（毎月第 2 木曜日、県立こども病院）

周産期カンファレンス（毎月水曜日、県立こども病院）

長野県小児循環器懇話会（県立こども病院）

長野県重心医療協議会（不定期、県立こども病院）

中信地区小児科勤務医会

＜5 その他＞

院内感染対策

虐待について：伝達講習や講義、必要に応じて E-learning（BEAMS 等）

研修評価

研修評価は、研修修了時（～その 1 ヶ月以内）担当指導医が、EPOC-オンライン評価システムにて評価する。最終評価は、まつもと医療センター病院群臨床研修管理委員会でその委員会規定に基づいて行う。

＜ 指導医＞

岩崎 康	昭和 63 年卒	日本小児科学会認定専門医, 日本小児循環器学会専門医
北原 正志	平成 2 年卒	日本小児科学会認定専門医, 日本腎臓学会腎臓専門医
倉田 研児	平成 10 年卒	日本小児科学会認定専門医
西村 貴文	平成 14 年卒	日本小児科学会認定専門医
松崎 聡	平成 8 年卒	日本小児科学会認定専門医